

第1部 現場〈庭〉から「伝える技術・受けとる心」を考える一講演会

「庭が結ぶ世界」at 恵庭

講師：土肥真人氏（コミュニティー・デザイナー、東工大準教授）



「恵庭市とはなんと素敵な名前なのだろうと、この街に来る前から思っていました。今日は素敵な庭をたくさん見せていただきました。そしてこの街の庭は、僕の思う「庭」をはるかに超えています。街の住民が丹精込めた庭は、いくつも連なりオープンガーデンとなって、街の中に庭のネットワークを形成しています。私の先生であるランディー・ヘスターは『庭の意味とは、全体として、すなわち相互に関係し連続する、空間、行動、そして象徴というひとつの生態系としてとらえられる。』と言っています。

（「庭の意味論」p 2、鹿島出版 1996） 庭の生態系、すなわち人々が庭仕事に込める丹精が空間的、象徴的ネットワークとなっ

て恵み野を覆っているということだと思います。本当に美しい庭であり、街でした。漁川（いざりがわ）と茂漁川（もいざりがわ）もまた、ただただ美しい川でした。多自然型工法を施された川には季節外れの鮭が一匹泳いでいました。この川の風景の美しさはどこからきているのでしょうか。漁川と茂漁川に丹精を込めた人々によって醸し出されていると言え言いすぎでしょうか。私はそうは思いません。地域の風土の核である川を、さまざまな制度や技術を屈指して自然の形に近づけたのは、この川を愛する人々なのです。恵庭市には人々が慈しむ庭と川があり、それらは相互に無数のつながりを日々生み出し、つまり街への愛のネットワークが作動しているのです。私がこの「地域連携コミュニティ再生講座」に参加して4年目になります。あらためて地域連携の意味を考えさせられ、そして地域「連景」という造語を思いつきました。この言葉を今でも考え続けています。人々が大切に作る風景は、どのようにお互いがつながり、風景の生態系を作り出すのだろうか、と。皆さんと一緒に考えていきたいです。」

「映像から見える地域の魅力」

講師：佐々木邦俊氏（Mo☆vie Broadcast Office Kuni 代表）

講師の佐々木邦俊さん（ほうしゅんさん）には、デジタル映像コンテンツ制作講座の講師を担当していただいています。今回の講演の中では、動画を使った「庭めぐり」＝各団体施設紹介のデモンストラーションビデオを紹介してくれた。

映像をつくる技術は身近なものとなり、もはや個人が BBC や CNN、NHK などの大組織の放送局と同じことが出来るようになり、“劇団ひとり”ならぬ、“放送局ひとり”状態であるとのこと。

ほうしゅんさんが動画を作る際、意識しているキーワードが二つあり、一つが『「観光」と「観音」』であるとのこと。光を観る、音を観るのが映像、映像とは光の残像の世界、まさしく色即是空な世界とのこと。もうひとつが『人を中心とすること』とのことでした。絵コンテなどが無くても流れの中でのライブ感を大切にしているとも話していただきました。

